

(福) 日本聴導犬協会 2026 年(令和 8 年)度 事業計画書

2026 (令和 8) 年 4 月 1 日～2027 (令和 9) 年 3 月 31 日まで

I	事業計画
I	全体的な活動の中で、特筆すべき内容 (1)2026 年 B社紹介。米国財団申請予定。 「シニアサポート犬普及活動」 ※2024～2025 年は、\$ 8000 により『シニア・サポート犬』普及活動とマニュアル配布しました。N 主研究員を主体に ■発表した国際学会 ① 米国学会 RehabWeek2025,2025, 5. 12-16,シカゴ。62カ国1200名参加。 ② 2025※ACRM Annual Fall Conference &EXPO,2025. 10. 27-30,シカゴ。1188 名参加。※American Congress of Rehabilitation Medicine ③ ※WFOT Congress 2026, 2026.2. 9-12。バンコク。100カ国以上2300名参加 ※the World Federation of Occupational Therapists ※以下、これまでのシニアサポート犬普及先リスト: ① 2024 年 6 月 原評議員のお力添えで、岐阜保健大学での『シニア・サポート犬』に関する特別講義 (対象:作業療法士および理学療法士による参加者約 100 名様) ② 2024 年 6 月 後援:軽井沢町. 軽井沢観光協会など『シニア・サポート犬』訓練指導 (一般公募による 65 歳以上の犬飼主 30 名様に参加) ③ 2024 年 11 月「アジア・太平洋作業療法学会」前日ワークショップにて『作業療法におけるシニア・サポート犬の可能性』発表 (主にアジア、太平洋地域の作業療法士 約 100 名様参加) ④ 同学会へのポスター発表にPR犬こうと有馬の立会いが実現。 (2) Big News : 引地理事のお力添えで、東京のロータリークラブ (RC) 様での卓話&デモご依頼がいただけます。例:2025 年度 3RC 様で実施済み。チャリティ食事会がご縁で、東京のライオンズクラブ様からのご支援にもつながる予定 I 聴導犬・介助犬事業計画 (1) 【予定】聴導犬チーム 3 名。計 3 チーム 【現況】活動中 16 チーム(聴導犬 13 チーム。介助犬 3 チーム)。タンデム聴導犬みち&てい。るい。聴導犬しょう&たく&もも。ぜん。はつ。かな。ひさ。ファーファ。介助犬アイボリー&しゅう&こう 引退理由:犬死亡のため、モアナ。 2025～2026 年度の希望者 23 名様。そのうち (2) 予定【聴導犬認定試験受験 3 名】 ※2025 年度実績は、2025 年 10 月 S 様&候補るい。2026 年 2 月 S 様&候補犬るい。0 様&候補犬こう 【問合せ、体験および訓練中3名様】 (3) ペットお手伝い犬訓練 2 名様実施中

※【中断中 3名様】 諸事情で訓練中断。

(4) 課題: 訓練整備

【環境整備実績】 芦屋ハーモニーライオンズ様の同行をお願いした。兵庫県からの希望者が増える見通しがあるので、芦屋市周辺でのパブリックアクセスの願いができました。阪急バス。JR 西日本。芦屋商工会など。(例: 22~23 年で、東京支部(八王子市)でのバス乗車、買い物訓練(イオンとセレオ)で許可いただきました。

(5) ユーザーのリクルーティングツール

「赤い羽根共同募金助成」により「全国の小学校、中学校向けの動画(無料配信)制作。宮田村教育委員会の協力を得て、全国の小学校、中学校向けに配信だけでなく、ユーザー募集に聴覚情報センターへの送信済み。

(6) 隔絶されたユーザーさんとのコミュニケーションには、Line での情報提供を実施済み。さらなる交流のために。

6 月予定: 佐渡ヶ島での普及活動に 4 名ユーザーさんが参加。ボランティアさん 6 名参加
→ リモート会議(手話通訳付き)などを行い、今後、交流を増やす予定。

(7) 2024 年 4 月~差別解消法の合理的配慮により、主催イベントなどへの手話通訳など情報保障が義務化されました。手話の研修化。タブレット(口話の文字化)などの活用をさらに、図っていきます。

(8) 手話付き Zoom 聴導犬&介助犬質問会を実施しています。さらに、広報予定。

(9) 兵庫のユーザー様を中心に、定例の聴導犬相談会を実施予定。例: 3 月 6 日 4 名。USJ からの視察も入る。

(10) 東京支部での定例、オープンディも開始。

II. インターネット関連 予定

(1) セールスフォースは継続的な顧客リストの整理中。業務委託 M さんが別アプリでの改善案を検討後、費用の問題で却下。セールスフォースの活用で整理に戻る

(2) 会員限定特別 Facebook ページを開設。投稿数のアップなどにより、その充実を図った。

(3) メルマガ配信 会員数 昨年 1200 名 → 2000 名様だが、あまり、効果がなく解約予定。

(4) クラウドファンディング(CF)

25 年度「たかちゃん基金」2月の呼びかけ開始。

(24 年「たかちゃん基金」シニア犬・引退犬・闘病犬の医療費補助への CF は、目標額を超え、5,134,500 円達成)。

5) 26 年度: Zoom 講義を大学などへ広報予定

(6) Youtube で、シニアサポート犬訓練について、動画配信中。継続に配信していく。

(7) 「お宝エイド」への貴金属やゲームなどの寄付支援を増していく

(8) Zoom 手話研修: 受験予定: 手話検定 2 級 1 名。4 級 1 名。(2023 年度: 学院生およびスタッフ手話 3 級試験に 2 名が合格。ソーシャライザー 2 名様と学院生 1 名。スタッフ 5 名、ユーザー 1 名受講中)

(10) AirDog 空気清浄機の売上一部寄付を支援としてさらに普及予定

(11) 引地理事とのお打合せで、シーガルフォー浄水器の普及予定

■さらに充実させる SNS 活動

(1) 聴導犬普及動画を修正済み。スタッフ S が編集。ケア、訓練など、配信予定積極的に配信：制作済：長野県共同募金に「Web での聴導犬&介助犬講演会を全国の小中校への配信用動画修正

(2) 企画中：動画「犬の問題行動の治し方」を限定 youtube で配信予定

(4) 完備終了。施設内 Wifi 環境安定化

(5) Youtube で、配信中シニアサポート犬訓練動画、配信中

III 本部と事務所：活動予定

(1) 東京支部<東京都認可：2018 年 2 月～)

・構成：施設長：MAYUMI (社会福祉法人施設長資格取得)。業務委託：訓練 1 名。事務：1 名

① 使用予定数 70 日。ユーザー利用者数 50 名様 (※24 年 64 日 37 名 23 年 70 日 60 名様。22 年 34 日。21 年 50 日。20 年 50 日。19 年 156 日)

(2) 関西事務所(2008 年から設置)

支部候補地を検討中

・施設責任者：Y 様。

① 使用予定数：25 年 40 日 ユーザー利用数 20 名様 (24 年 28 日 15 名 23 年度 9 日。22 年度 5 日、21 年度 12 日)

(3) 本部：

・施設長：有馬もと 人員：スタッフ 13 名→16 名。(訓練 12 名 事務 4 名) 定期的ボランティア 10 名 (22 年度スタッフ数 10 名。21 年：8 名)

① 予定使用数：365 日稼働のうち特別利用日数：180 日 (24 年 159 日 23 年 142 日)

・使用者数：2500 名様 (24 年 1893 名 23 年 1488 名。22 年 1694 名。20 年 779 名)

・ユーザー利用：10 名 (24 年 6 日 23 年 26 日 26 名 22 年 29 日 49 名。21 年 49 回：うち 4 回希望者面談&体験含む。20 年 38 回)

・パピークラス&Pro-Dog School：25 回 (24 年 14 回 23 年 16 回 21 年 11 回)

・講演会&相談室(90 回予定 24 年 87 回 23 年 58 回)+聴導犬クラブ(23 年度で終了)

・職場体験&研修：10 校 30 名(24 年 7 校 22 名 23 年 9 校 57 名 22 年 7 校 36 名 21 年 4 校 30 名。20 年 5 校 62 名)

・調査&研究：3 回(24 年 2 回 6 名 23 年 3 回 9 名 22 年 3 回 8 名。21 年 2 日 4 名。20 年 3 日 9 名)

・取材：10 回(24 年 6 回 23 年 4 回 22 年 9 回、21 年 10 回。20 年 5 回)

★本部施設修繕について：2008 年に keirin 補助事業により竣工。15 年以上経過後の Keirin 補助事業での施設の修理代が補助頂けるシステムがあり、本年度は、業務委託の Y のアシストを得て、補助金での屋根外壁補修事業申請済み。2025 年 3 月は不採用。他に協会の施設整備積立金額からの取崩金等でサロン前のウッドデッキや施設内の整備、助成金等でドッグランエリアに自動草刈りロボットを導入の予定。

II	◆収入
	① CF：25年度 150万円目標。2026年3月～Congrantで『たかちゃん基金』CF開始（例：24年51,334,500円達成。23年度5,317,500円）
	(1) 収入：遺贈を含めた寄付収入など7,625万円、及び、屋根・外壁塗装JKA補助金約1,544万円補助金予定（24年約4700万円23年約7100万円(遺贈4000万円含)。21年約5850万円。20年4820万円）
	(2) 支出：7,297万円（24年約6200万円(23年約7000万円21年約5790万円)、及び屋根・外壁塗装及び屋内外施設整備費約2,573万円（一部、施設整備準備積立金より取崩） ※24年度は、シニア犬介護&医療費のための出費が増えています。
III	◆候補犬・協会所属犬
1	(1) 協会犬： 35頭（24年28頭(23年28頭。22年31頭。21年34頭）
2	(2) 新規候補犬： 10頭（24年5頭 23年6頭。22年7頭。20年5頭）
3	(3) 聴導犬候補犬ネットワーク 26カ所（24年24カ所23年23カ所。22年度まで全国の動物愛護センター、保護団体と繁殖家から20カ所。24年度は、沖縄のpip動物保護団体新規協力
IV	新家族（キャリアチェンジ犬の里親）リストを作成。
	繁殖：より良い候補犬繁殖は、英国聴導犬協会での研修を2019年の6月に実施済み。身体的&気質的に良い子がいた場合に、繁殖を実施する予定
V	普及活動：デモ&講演会予定
	デモ&講演会：90回（24年87回23年58回。22年26回。21年35回）
	・大学&専校での講義：4校（24年2回23年4校。22年度3校。21年4校。20年5校）
	・講義&研修など：100回（24年87回22年度23回21年82回。20年度94回。19年度291回）
	・職場体験&研修：10校30名（24年7校22名23年9校57名22年7校36名21年5校30名）
	(2) 施設利用数：2000名（24年1893名23年1488名。22年1694名。21年1053名）
	(3) ご来所デモ（24年度45回）のための資料充実、魅力的なチャリティグッズ（敬ちゃん時計作成依頼済み）作成予定
VI	日本聴導犬・介助犬訓練士学院
	学院:26年度:通信教育開始。(25年度1名採用。24年1名採用。23年1名採用。22年入学生3名のうち1名を採用。2019年、2021年の研修生から1名ずつが学院12期14期の入学。スタッフに採用)
VII	・聴導犬&介助犬認定試験合格
	・認定試験合格：5名予定（24年度2名。23年1名。22年0。21年2チーム）
	・兵庫県依頼で聴導犬認定委員を継続
	・他団体からの認定試験なし
	・実地試験と面接試験を実施。面接は状況によりZoomでもありおこなうこともある。
	・候補犬と、保護団体とのネットワーク作り予定
VIII	「聴導犬候補犬ネットワーク」
	「聴導犬候補犬ネットワーク」。全国24カ所（沖縄のPip動物保護団体が協力）。
	繁殖計画 英国聴導犬協会に研修実施済み。優良な候補犬が見つかり次第開始
IX	・新候補犬
	・新家族：10頭予定（24年4頭マッチング中（すが、こう太、もも、みや）候補犬10頭23年6頭（Q太郎。らく。まお。しおの。ひめ。いずみ）22年5頭：ちこ、のぞみ、たける、のこ、はる、）
	関係諸動物愛護団体との相互リンク→ワンズパートナーに依頼済み

P-01 高齢者と犬との活動における前頭葉機能評価 : 作業遂行エンパワーメント向上に資するシニアサポート犬研究

©中島ととも1) (Tomomi NAKAJIMA)、有馬もとと2) (Moto ARIMA)、原 和子3) (Kazuko HARA)
 1) 横浜国立大学 リハビリテーション学科 (Yokohama National University Department of Rehabilitation)
 2) 日本聴導犬協会 (Japan Hearing Dogs for Deaf People)
 3) 岐阜保健大学 リハビリテーション学部 (Gifu University of Health Science Department of Rehabilitation)

Areas of Activation of Frontal Lobe Function in Activities Between the Elderly and Dogs: Research on Senior Support Dogs Contributing to Occupational Performance Empowerment

【背景】

日本聴導犬協会での介助犬・聴導犬育成経験から、良く訓練された犬は障害者に限らず、軽度認知症の作業遂行向上にも寄与するとの印象を受けた。我々は動物介在活動の中でも、高齢者の認知機能に働きかける犬をシニアサポート犬(以下、S犬)として細分化し、認知神経系および社会的交流技能への影響を調べ、S犬の治療的活動のレシピ作成を最終目標としている。

撮影不可

【目的】

近赤外線分光法 (functional near-infrared spectroscopy, 以下 fNIRS) 用いて、犬への命令課題を行う活動における前頭葉領域の賦活を測定し、その特徴について知見を得たので報告する。

【方法】

対象者: 26名、65歳以上の高齢者(平均 75 ± 5歳)
 ● 注意機能評価テストの Trail Making Test 日本版の内 partA (以下、TMT-A: 図-1参照)において正常値であった者。
 ● 犬に対してアレルギーを持っておらず、好感を持っている者
 ● 26人の対象者は、13人ずつランダムに2グループに分けられ、TMT-Aの課題と犬への命令課題を実施した。

課題: 日本聴導犬協会の協力を得て、人の指示に従うよう十分訓練された犬を用い、認定資格を持ったトレーナーの監督のもと課題を設定して実施した。(対象者は、椅子に座って実施した。)

TMT-A課題

合同とともに、数字を順に①~⑥まで一筆書きのようにしてつないでいく。(図-1)

指示課題

- ① スプーンを落とし、「Take」と指示し、スプーンを拾わせる
- ② 犬を褒める
- ③ 5m先の床に落ちた新聞紙を「Take」と指示し、新聞紙を拾わせる、被験者の手に渡す。
- ④ 犬を褒める

<fNIRS測定方法>

* TMT-Aと犬への命令課題実施中は、fNIRSにて前頭葉領域を測定した。

測定機器

Model :Spectratech OEG-17APD. 測定部位は前頭連合野領域とし、プローブの設置は、脳波測定基準10-20法を参考にチャンネル(以下Ch)の位置をFp1・Fp2からT3-T4への直線のラインに、チャンネル03, 06, 09, 12, 39, 15が配列されるように前頭部に装着した(図-2参照)。

実施の手順

ベースラインの測定> 45秒間 無言で1から10までをカウントさせた。
 実施> TMT-Aの実施は、規定時間を定めず25までつないだ
 指示課題の実施は、規定時間を定めず①~⑤を完遂させた
 (事前に訓練士から説明を受け、命令課題実施の練習を行った)

解析方法

課題実施時の酸素化ヘモグロビン(oxy-Hb)の濃度値(mM/mm)をz値を算出し、TMT実施と命令課題実施時のz値の平均値についてt検定を実施した。

$$\text{課題実施のz値} = \frac{\text{課題実施時} - \text{ベースライン平均}}{\text{ベースライン標準偏差}}$$

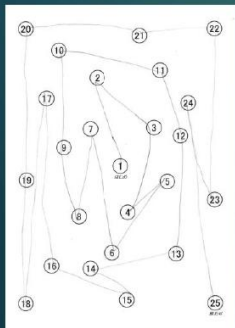
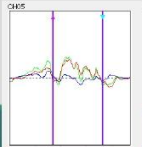


図-1 TMT-A

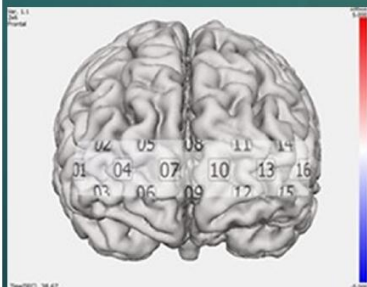


図-2 Chとプローブの位置

表-1 対象者のfNIRSのデータ (z値変換後一覽)

課題	右前頭葉				左前頭葉			
	Ch03	Ch04	Ch06	Ch07	Ch11	Ch13	Ch12	Ch10
command-1	-1.290	-1.932	1.212	-0.447	-3.011	0.674	-1.020	-0.284
command-2	0.948	1.061	-0.231	1.029	0.498	-0.489	-0.262	0.428
command-3	-0.214	1.494	1.218	0.227	1.385	2.466	3.928	0.864
command-4	2.078	2.791	2.409	0.656	4.428	1.856	4.743	0.249
command-5	4.188	-0.009	-3.931	1.741	-3.201	-0.078	-0.016	3.781
command-6	10.910	12.098	1.662	3.747	9.386	3.796	1.723	2.200
command-7	3.518	1.072	3.252	0.384	-0.597	1.267	-1.775	0.481
command-8	0.356	0.369	0.216	0.356	0.256	0.269	0.269	0.356
command-9	1.181	4.499	2.816	5.482	1.971	3.126	3.704	7.170
command-10	0.248	-1.039	2.654	0.898	-0.350	-0.112	1.608	-0.507
command-11	-0.302	4.389	-4.235	1.176	3.712	4.691	-2.734	-0.971
command-12	6.129	2.246	4.752	4.782	6.864	-0.125	-1.046	1.974
command-13	0.680	1.977	-1.150	0.646	2.231	0.601	0.637	3.129

TMT-Aの課題に比べ特に右背外側前頭前野で有意差が観測された。その他のChに有意差は認められなかった。

本研究の着想に至った経緯

研究者の身内の認知症発症に伴い、大学病院の認知症専門医への受診、新薬の試験者などの医療領域での治療を受けたが、思うような効果が出たとはいいがなかった。
 その中で、聴導犬&介助犬との①給餌 ②ケア(ブラッシングなどのふれあい) ③指示の3つの状況における対象者を観察すると、③における顕著な「歓喜、達成感、優越感」などが観察できたことから、本研究の課題設定がなされた。

Special Thanks!
 コーディネーターの安部宏美さん、高橋文子さん調査に協力いただいた上伊那地区のシニアのみなさまに深く感謝申し上げます。

【結果および考察】

TMT-Aの課題に比べ特に右背外側前頭前野を測定するChで有意差(p = 0.05, d = 0.81)が観測された。その他の脳領域に位置するChに有意差は認められなかった。TMT part Aは注意機能の選択性と転導性を評価し(Treivño, et al.: Cognitive Research: Principles and Implications, 2021)、もっとも加齢の影響が出やすく、そのパフォーマンスは右背外側前頭前野の活動に左右される(Talwar, et al.: PLoS ONE, 2020)とされ、part Aが可能でpart Bが不可能であるようなレベルの注意障害を呈する対象者は、基本的日常生活活動が可能であるが応用的日常生活活動で見守りが必要なレベルであることがわかっている(中島, 2015)。今回測定された前頭葉領域の内、右外背側前頭前野は、社会性や情動性を伴う行動のコントロールや、ヒト特有の様々な環境刺激に対する適切な反応の促進や反応の抑制とメタ認知能力を担い、高度な注意機能を担う領域である。認知症の行動心理症状との関連も示唆されている(中村, et al., 2022)。
 当該領域において指示課題実施時の賦活が、TMT-Aより賦活が高いということは、犬に指示する課題は、日常生活に必要な右外背側前頭前野の賦活を引き出す可能性があると考えられる。

【まとめ】

S犬との交流は、高齢者の脳賦活を促し、社会的交流を高める可能性が示唆された。今後は社会的処方(エンパワーメントを共通概念として、高齢者に提供される具体的な支援策)にむけた、S犬アルゴリズムの構築を目的とし、様々な人と犬との交流課題における脳の賦活を測定すること、また、活動中のヒトの感情の表出の評価、感情とのマッチングも含めた検討を行っていきたいと考える。
 * 2023年度 科研費基礎C獲得研究

fNIRSについて

fNIRS(近赤外線分光法)システムでは酸素化ヘモグロビン(oxy-Hb)と非酸素化ヘモグロビン(deoxy-Hb)とトータルヘモグロビン(totalHb)の相対的な変化を数値化する。

ヘモグロビン(Hb)は活性化すると酸素を取り込み酸化ヘモグロビンに変化する性質があり、その2つの変化量を「近赤外光を吸収する」という特性を利用して数値化している。fNIRSでは、レーザー等の光源から出力した近赤外光を送光ファイバを介して、頭表より脳内に照射する。大脳皮質で吸収・散乱を起こした近赤外光を30mm離れた位置で、頭表から、受光ファイバを介して、光電子増倍管等の光検出器で検出する。

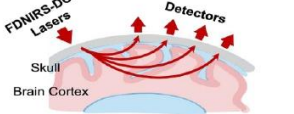


図-3 参考> <https://www.spectratech.co.jp/>

図-4 参考> <https://www.fnirc.org/principles-of-nirs>